

地域医療対策特別委員会会議録

平成20年3月17日

場 所 第4委員会室

平成20年3月17日（月曜日）

午前10時0分開会

会議に付した案件

○協議事項

1. 委員会報告書について
 2. 委員長報告（案）について
 3. その他
-

出席委員（13人）

委員	長	井上紀代子
副委員	長	新見昌安
委員		米良政美
委員		井本英雄
委員		蓬原正三
委員		丸山裕次郎
委員		黒木覚市
委員		押川修一郎
委員		宮原義久
委員		松村悟郎
委員		満行潤一
委員		外山良治
委員		凶師博規

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

事務局職員出席者

政策調査課	主査	久保誠志郎
議事課	主幹	亀澤保彦

○井上委員長 ただいまから地域医療対策特別委員会を開会いたします。

委員の皆さまにおかれましては、本当に定例会審議でお疲れのところもあろうかと思ひます

が、本日もよろしくお願ひします。

まず、本日の委員会の日程についてでございますが、お手元に配付の日程案のとおり取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○井上委員長 それでは、そのように決定いたします。

早速、協議に入らせていただきます。

まずは、委員会報告書についてであります。委員会報告書につきましては、正副委員長の方で、原案を作成させていただき、先日、書記が持ち回りをして、委員の皆さんの御了承を事前にいただいたところであります。その報告書をもって、議長への報告としたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○井上委員長 それでは、そのように決定いたします。

なお、報告書につきましては、定例会最終日であります3月19日に、他の特別委員会の分も併せて合冊して、議場に配布いたしますので、御了承いただきたいと思ひます。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

次に、定例会最終日の本会議で行う委員長報告についてであります。資料1をごらんください。委員会報告書を要約した形で委員長報告案を作成しておりますので、ごらんいただきたいと思ひます。御意見等ございますでしょうか。

○外山委員 1ページの下から9行目にある「人口10万人当たりの小児科の医師数は、全国平均12人に対し、本県は全国で37番目の10.7人と少なく」というところに、宮崎市だけが全国平均であり、ほかの地域は下回るという地域バランスのことを具体的に書いてもらった方が良く思ひます。

○井上委員長 それでは、ただいまの御意見を踏まえて、報告を行いたいと思いますが、案文の修正につきましては、正副委員長に御一任いただくということで、よろしいでしょうか。

○丸山委員 直近のデータでは、小児医療が全国で下から2番目という記憶もあるんですけど……。最初に小児科医が少ないことを述べており、後で地域格差を述べているので、このままでも私は読めると思います。小児科以外の医療に対しても宮崎県としては、ほぼ平均以上であり、地域的偏在を最後にまとめていますので、そのままでもいいと思います。

○井上委員長 いかがでしょうか。

○外山委員 私が申し上げたいのは、宮崎市だけ医療が充実していて、他の地域に申し訳ないと思っています。だから、小児科医については、3ページの方に全部持ってきて、おしなべて書いた方が分かりやすいのではないかと思います。

○井上委員長 それでは、両方の意見に違いがないと認識しましたので、案文の修正につきましては、正副委員長に御一任いただくということで、よろしいでしょうか。

○井本委員 5ページの5行目に「県民一人一人が、地域医療に対して認識を深め、取り組んでいただきたいことが『二つ』あります。」とありますが、この「二つ」でいいのでしょうか。

○井上委員長 ここが、一番大事なところなんですけど、御意見があれば伺います。

○丸山委員 県民の意識改革をしっかりしていただかないといけないと思う。全てが高度医療ということだけではなく、予防医学もしっかりやるべきだということで、このようなニュアンスになっていると思います。県民が「二つ」だけ取り組むのではなく、できるだけ県民に意識改革をやって欲しいというイメージだと思いま

す。

○井上委員長 行政や医療及び介護機関の力だけでは限界があるということを前段で書かせていただいているんですが、それと同時に、県内の限られた医療や介護資源を有効に活用することの必要性についても訴えております。それで、住民一人一人が地域医療に対して、どのようなことができるのかということを書かせていただいております。一つめは、県民が救急医療の現状や実態、初期救急医療施設と2次及び3次救急医療施設の仕組みを県民が理解することや、そのことを行政機関がきちんと伝えることの大切さを書かせていただいております。二つめが、予防は治療に勝るということで、できるだけ病気にならないための努力を、みんなで行っていくことの大切さを書かせていただいております。

○井本委員 予防医学については、これでいいと思うんですが、我々が委員会として県民に「二つ」やっていただきたいと提言する訳ですよ。言葉のあやかもしれないけれども、「現時点において」とか「この状況を踏まえ」とか、何かニュアンス的にあった方がいいような気がするんですがね。

○井上委員長 ほかの方、何かないでしょうか。

○押川委員 委員会報告書を要約してのことですから、正副委員長にお任せしていいんじゃないかと思います。

○井上委員長 それでは、今までの御意見を取り入れて、正副委員長に、再度ですが、御一任いただくということで、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○井上委員長 それでは、そのように決定いたします。

最後になりますが、協議事項3、その他でご

ございますが、委員の皆様から何かございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○井上委員長 それでは、ないようですので、これで当委員会の全ての議事を終了したいと思いますのですが、閉会にあたりまして、正副委員長の方から、ごあいさつさせていただきたいと思えます。

まずは、新見副委員長の方から、ごあいさつをお願いしたいと思います。

○新見副委員長 宮崎県が直面してますいろいろな課題の中で、特に重要な地域医療について、皆様の御協力のもと、調査することができました。ただ、副委員長という立場を考えますと、委員長の補佐がしっかりとできたのかということがございますが、この1年間で学んだことを、議員個人として、また、県議会議員として、しっかり取り組んでいきたいと思えます。本当に1年間お世話になりました。ありがとうございました。(拍手)

○井上委員長 それでは、私の方から最後になりましたが、ごあいさつさせていただきます。

本当に1年間ありがとうございました。この地域医療という課題は、突き詰めれば、突き詰めるほど、県政の大きな課題として、今後もずっと残っていくものと思っています。そういう意味では、私どもがこの1年間、熱意を持って取り組んできたこの時間というものは、非常に大切なものになるのではないかと考えています。県議会として、初めて宮崎県医師会との意見交換会を開催いたしましたし、宮崎大学の医学生の皆さんとも意見交換をさせていただきました。そして、いろんな分野に参りまして、いろんな調査をさせていただきましたが、その一つ一つが、非常に意義あるものとして、私どもの体の

中にしっかりと根付いているのではないかと考えています。県民の皆様にとって、これからも宮崎の地域を愛していただくためには、私ども県議会が今後も取り組んでいかなければならない課題として、私どもに認識させたということが、この地域医療対策特別委員会の持つ、大きな意義であったと思えます。1年間の委員の皆さんの御協力、本当にありがとうございました。良い1年を過ごさせていただきました。(拍手)

それでは、以上をもちまして、地域医療対策特別委員会を終了いたします。皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

午前10時18分閉会